

クリンフット

《自動車用薬液噴射装置》

大型・中型トラック用

型式：CL－□□020

取扱説明書

はじめにお読みください

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU

東北海道いすゞ自動車株式会社

はじめに

この度、自動車用薬液噴射装置《クリンフット》をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書には、薬液噴射装置の正しい取扱方法と注意事項について記載してあります。

この取扱説明書をご一読の上、つねに最良の状態で正しく安全にご使用下さい。

お読みになった後はいつでも取り出せるように保管し、わからないことがあったときにお読み下さい。

取扱説明書を紛失された場合は、お買い上げの販売店にご注文下さい。

尚、品質・性能向上のため、部品の変更を行う場合があります。

その際、本書の内容と一部異なる場合がありますのでご了承下さい。

保証について

キットの各部品の品質保証は東北海道いすゞ自動車株式会社が行います。無償修理期間はキット購入後1年間とさせていただきます。

取り付け作業にかかわる部分の品質保証はその作業を実施したところで行ってください。

1. はじめに		1
2. 目 次		2
3. 取り扱い上の注意		3
4. 《クリンフット》の特長		4
5. 各部の名称と働き		5
6. 使用していないときは		8
7. 使用前の準備		9
8. 薬液の噴射		11
9. 一日の作業の後に		13
10. 日常のお手入れ		14

注意事項について

この取扱説明書では特に重要と考えられる取扱上の注意事項について次のように表示しています。



注意事項を守らないと、死亡または重傷を負うことになる
操作手順や状況を示します。



注意事項を守らないと、死亡または重傷を負う危険性がある
操作手順や状況を示します。



注意事項を守らないと、怪我を負う恐れのある操作手順
や状況を示します。

重要

注意事項を守らないと、機械の損傷や故障の恐れがある
操作手順や状況を示します。

本装置の特徴

本装置は、運転席に乗ったままスイッチを操作して車を少し動かすだけで、各タイヤに薬液を噴射することができるため、自動車のタイヤ消毒作業が軽減できます。

車両のエア圧を薬液の噴射に利用しているため、新たな動力が必要ありません。

本装置の用途

自動車のタイヤを消毒するための薬液をエア圧で噴射する装置。

本装置の仕様

タンク容量	約 38リットル	
タンク長	54cm	
タンク直径	32cm	
タンク材質	ステンレス	
タンク最大許容圧力	1MPa	
タンク重量	約 20kg	
噴射能力	6輪車用	毎分約 10リットル噴射
	10輪車用	毎分約 13リットル噴射

使用薬液

消毒用薬剤

重 要

塩素系の薬剤は本装置の腐食を早めるだけではなく、車体やタイヤにも悪影響を及ぼす恐れがあります。

重 要

薬液が凍結すると装置は使用できず、破損します。

寒冷地でご使用は、凍結しない薬剤を使用するか、ポリプロピレングリコールや自動車用ウィンドウォッシャー液で薬液を作るなど、凍結防止の対策を充分に行ってください。

取付け状態は車両ごとに異なります。そのことをご理解いただいた上でお客様の車両と本書を比較して確認してください。

1. エア圧を車両から取り出す部分

- ① プロテクションバルブ（設定値 約 0.7MPa）
車両のエア圧が設定値より高いときだけバルブが開き、薬液タンクに圧をかける
- ② ストップ弁付ワンタッチ継手
チューブを抜くと弁が閉じる
※チューブを奥までしっかり差し込まないと弁が開きません



写真 1

2. 薬液タンク周辺

- ① 薬液タンク
ステンレス製 容量約38リットル
- ② 3方切替バルブ
タンクにエア圧をかける (P.10 図6)
タンクの圧を抜く (P.8 図1)
- ③ 薬液注入口
薬液をタンクに入れる (P.9 図5)
※1割程度の空間を残すように入れてください

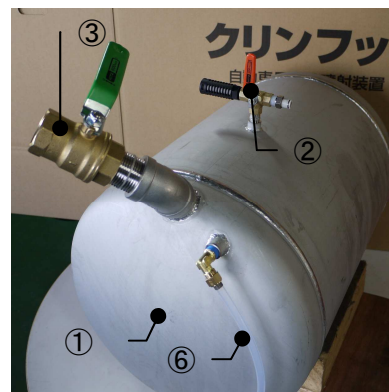


写真 2

- ④ 薬液送出口
- ⑤ ドレンバルブ
タンク内の液を抜く (P.13 図10)
- ⑥ 液面ゲージ
内容量確認用

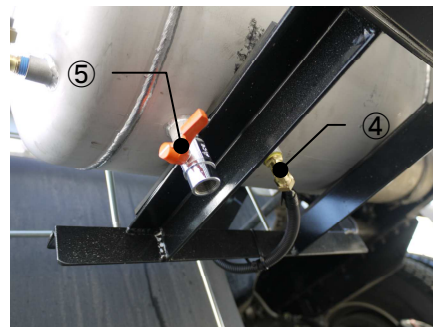


写真 3

- ⑦ ストレーナ
電磁バルブと噴射ノズル目詰まり
防止用フィルター
※噴射が弱くなったら分解清掃
- ⑧ メンテナンスバルブ
タンクに液が残っている状態で
ストレーナを清掃するときに使用

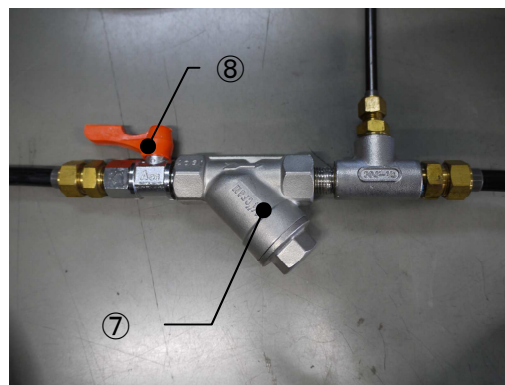


写真 4

3. 電磁バルブ

噴射制御用バルブ

※洗車するとき強く水をかけないでください

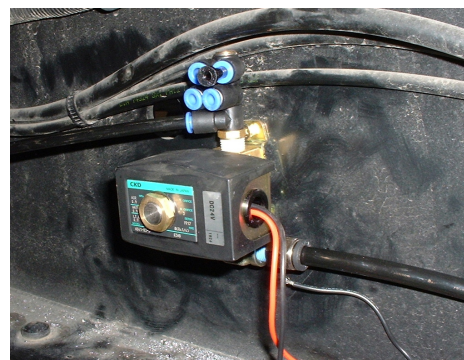


写真 5

4. 噴射ノズル

タイヤ毎に1個ずつ配置

※詰まったときは分解清掃してください (P.14 図 12)



写真 6

5. 足元ノズル

長靴など消毒用



写真 7

使用していないときは、タンクの圧を抜いてください

3方バルブのレバーを起こしてタンク内の
圧を抜いてください

ゴミがたまらないようにキャップをしてくだ
さい

！ 注 意

圧が完全に抜けるのには、しばらく時間がか
かります。

完全に抜けるまで待ってください。

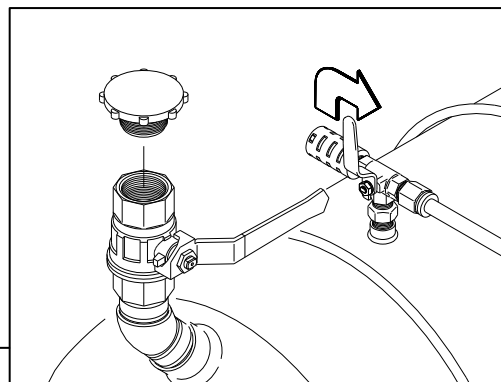


図 1

足元ノズルバルブは閉じてください

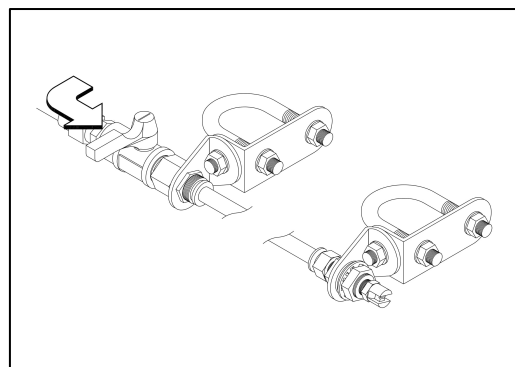


図 2

1. 薬液を入れる

最初に、3方バルブのレバーが起きていて、**タンク内に圧が残っていないことを確認**してください（P.8 図 1）

① ドレンバルブを閉る

② 薬液注入口を開き、薬液を入れる

※ 1 割程度の空間が残ようにいれてください

※ 薬液は取扱指示に従って作ってください

③ 薬液注入口を閉じる

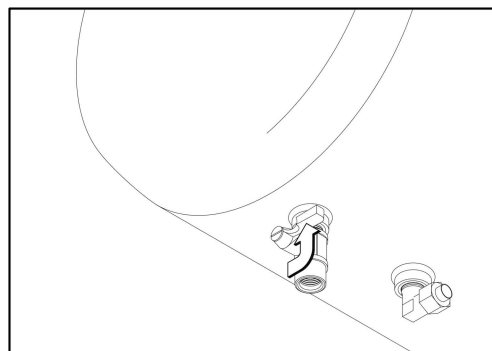


図 3

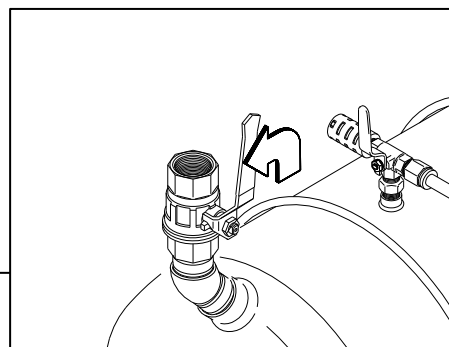


図 4

！ 注 意

タンクが液でいっぱいになっていると、
注入口や3方バルブから吹き出すことがあります

粉末の薬剤を使う場合

溶け残りがストレーナ、電磁バルブ、噴射ノズル目詰まりの原因になります。別容器で薬剤を溶かし、溶け残りが内容にしてからタンクに入れてください

！ 警 告

薬液の濃度は薬品で定められている濃度を厳守してください
必要以上に高濃度の薬品は、装置の腐食を早めるだけでなく、
人体や周囲の環境に悪影響を及ぼします

2. 圧縮空気を薬液タンクに送り込む

3方バルブのレバーを倒し、タンクにエア圧をかける

※車両のエア圧が低いときはプロテクションバルブが閉じて圧がかかりません

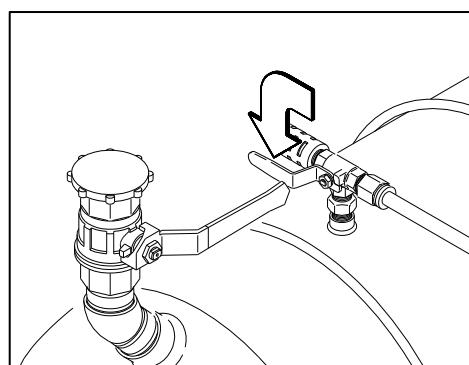


図 5

1. タイヤに薬液を噴射する

- ① 車両を停止
- ② 周囲の安全を確認
- ③ 運転席内の《クリンフット》のスイッチをいれる
※サイドミラーなどで噴射を確認してください
- ④ 車両を動かす <タイヤが一回転以上回るよう>
※大型車でタイヤが一回転するのに3m以上必要です
- ⑤ 車両を停止
- ⑥ 運転席内の《クリンフット》のスイッチを切る

危 険

一般走行中は危険ですので絶対に使わないで下さい。

薬液は勢いよく噴射されます。周囲に人や車のいないことをよく確かめてからご使用ください。

安全確認は薬液を噴射しながらタイヤ一回転分以上自動車を動かすことを考えて十分に行ってください。

2. 足元ノズルを使う

足元ノズルバルブを開けると薬液が出ます

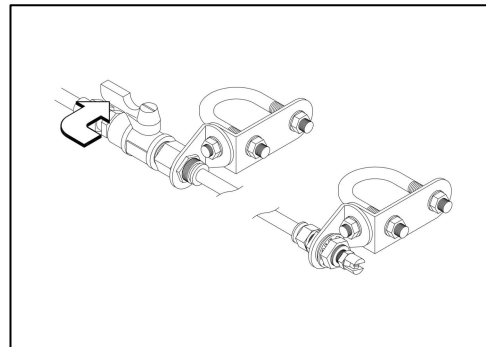


図6

万が一薬液が、誤って目や口や鼻に入ったり皮膚に触れてしまった場合は、ご使用の薬品の指示に従い速やかに洗い流したり医者に診てもらったりしてください。

薬液タンクに残っている薬液を全て抜いてください

薬液タンクに液を残したままにしているとステンレス製タンクでも腐食が早まります。長く安全にご使用いただくためにも作業のあとは薬液を抜いてください。



注 意

圧縮空気が完全に抜けて圧力が無くなるまでしばらく時間がかかります。

完全に抜けてから次の作業に進んでください。



警 告

薬液タンク内に圧力が残っている状態で、薬液注入口を開けないで下さい。

圧縮空気や薬液が激しく吹き出し大変危険です。

1. ストレーナの掃除

噴射が弱く感じたら分解清掃してください

- ① タンクの圧は抜いてください
タンクに液が入っているときは
バルブを閉じます

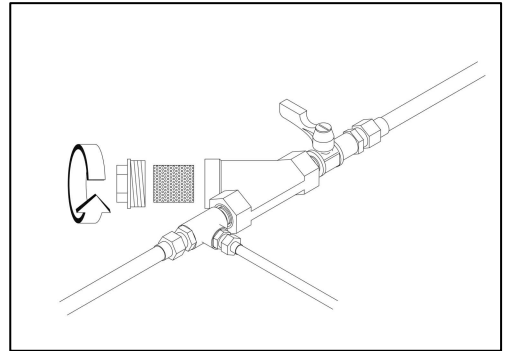


図7

- ② 一式全体が回転しないように固定して分解する
- ③ メッシュ部分を水洗いする
- ④ 漏れない程度に締める

2. 噴射ノズルの掃除

ノズルがつまったときは先端部分を外して掃除してください

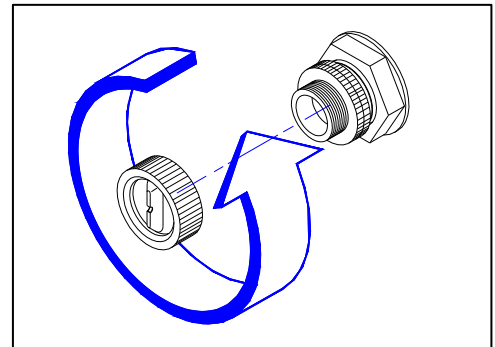


図8

3. 噴射ノズルの調整

ノズルを回し、タイヤのトレッド幅から薬液があまり飛び出さないように調整してください

3. 寒冷地での使用の注意

重 要

液が凍結すると、本装置は使用できず、破損します

下記の説明に従い、凍結防止の対策を充分に行ってください

- ※ 凍結しない薬剤を使用するか、ポリプロピレングリコールや自動車用ウィンドウォッシャー液で薬液を作るなど、凍結防止の対策を充分に行ってください
- ※ 使用を中止する場合は、カラの状態のタンクに不凍液を入れて噴射作業を行っていただき(足元ノズルも)、装置全体に不凍液を通しておいて下さい

4. 長期間使用しないとき

長期間使用しないときは、装置内の薬をできるだけ洗い流してください

タンクに真水を満たしてから、全部を噴射して出す作業(足元ノズルも)を2、3度行えば良いでしょう

その後、装置全体をカラの状態にして下さい

東北海道いすゞ自動車株式会社 環境事業部

080-2460 帯広市西 20 条北 1 丁目 3-5

TEL (0155) 58-1216 FAX (0155) 67-8670

最終改訂: 2021 年2月
